

というのは、神の言葉は生きており、力を発揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と霊、関節と骨髓とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができますからです。

(ヘブライ人への手紙 4章12節)

私たちが数学や物理の問題を解くときに必要な能力はどのようなものでしょうか。また、どのような思考を経ているのでしょうか。少し考えてみたいと思います。まず、正しい知識を持っていることが大前提です。公式を間違えて覚えていると、どうしても正解にはたどり着きません。次に、問題文を丁寧によく読み、何が問われているのか、どのような条件が与えられているのかを把握する必要があります。これには論理的な文章を読み解く力や、図やグラフなどを読み取る認識力が必要です。次に、問題を解く方針を立てる力が必要になります。問題を論理的に分析し、具体的な例から一般的な法則を見つけ出す抽象的な思考力もときには必要でしょう。限られた時間の中で問題を解くには、回り道をせずに、まっすぐ正解へと突き進む力も重要です。最後に解答用紙に自分の考えを記述する力がないと、採点者に評価してもらえません。このように実に多岐にわたる能力が必要であり、複雑な思考をしていることがわかります。

ところで、私たちが生きていく上で直面する問題を解決するには、どのようにすればよいのでしょうか。正解が1つとは限りませんし、本当に正解があるのかわからないものもあります。数学や物理の問題を解くよりもはるかに複雑で様々な能力が必要です。こういうときに重要になってくるのが、自分自身のことをよく知り、自分の思いや考えを冷静に客観的に分析することです。問題の解決はまず自分自身の点検から始まるというわけです。

上掲の聖書箇所には、神の言葉(つまり聖書)は生きていて、心の思いや考えを“見分ける”ことができると書かれています。“見分ける”には新約聖書が書かれたギリシア語では“kritikos”という言葉が使われています。これは英語の“critical”の語源と言われている言葉です。“critical thinking”が日本語では“批判的思考”と訳されているように、“critical”には“批判的な”という意味もあります。心の思いや考えを“見分ける”には“批判的”である必要があるのです。

人にはそれぞれ、自分が今まで生きてきた中で慣れ親しんできた価値観、常識などが染み付いています。「常識とは18歳までに身につけた偏見のコレクションでしかない」というのは、有名なアインシュタインの言葉ですが、私たちの心の思いや考えの大前提となる常識が、狭く偏ったものであるとすると、根底から疑う必要があります。また、スマートフォンなどで得られるあふれかえる膨大な情報に、私たちの思いや考えは影響を受けています。しかし、インターネット上の情報も信用できるとは限りません。ある調査では、若者に人気があるショート動画アプリで話題となっているキーワードの動画の内容をチェックしたところ、およそ20%の動画に誤った情報が含まれていたそうです。また、SNSには人々の不安を煽るようなデマが流されていて、拡散されています。こういった情報を無批判に受け入れることはとても怖いことです。このように、私たちは知らず知らずのうちに、誤った考え方をしているかもしれません。自分が本当に正しい考えをしているのか“批判的”に吟味をする必要があります。

だれも自分を欺いてはなりません。もし、あなたがたのだれかが、自分はこの世で知恵のある者だと考えているなら、本当に知恵のある者となるために愚かな者になりなさい。この世の知恵は、神の前では愚かなものだからです。(コリントの信徒への手紙— 3章18～19節)

これは大伝道者であるパウロの言葉です。パウロは決して、知識を得ることを否定したわけではありません。私たちの知識や常識を絶対なものとはせず、間違っているかもしれないと“批判的”に考えてみることで、つまり神以外のものを神としないようにとパウロは語っているのです。そして、自分の思いや考えを点検する基準は神の言葉、つまり聖書です。神の言葉は生きていて、驚くほどの力があります。そして、愛にあふれています。みなさんが聖書に基づいた愛と知恵にあふれた人生を送られるように、お祈りしています。